



令和5年度
全国学力・学習状況調査
結果概要

保護者・地域の皆様におかれましては、日ごろから本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。さて、本年4月に6年生を対象に実施いたしました全国学力・学習状況調査の本校の結果概要をお知らせいたします。本校では、この調査結果を踏まえ、更なる分析を深め、児童の学力向上に向けた改善プランを作成して学校の教育計画や日常の授業改善に取り組みます。

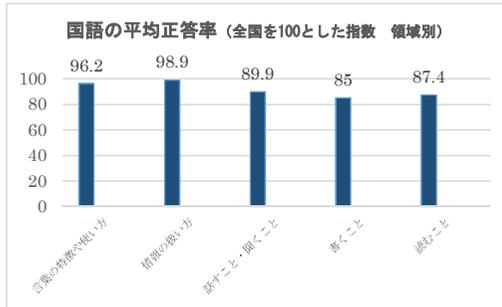
況調査の本校の結果概要をお知らせいたします。本校では、この調査結果を踏まえ、更なる分析を深め、児童の学力向上に向けた改善プランを作成して学校の教育計画や日常の授業改善に取り組みます。

※下記の「」の表現 ↓ は、北海道教育委員会の分類方法に基づいたものです。

国語 **全国の平均正答率と比較して「低い」の結果でした。**
全道の平均正答率と比較して「やや低い」の結果でした。

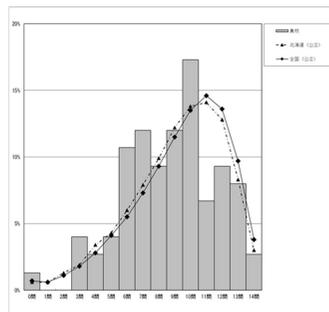
①領域別の結果

- ◆言葉の特徴や使い方に関する事項では、漢字を書く問題で全国・全道を上回っていました。日常のドリル学習の成果とみることができます。また、情報の扱い方では、原因と結果など、情報と情報との関係について正答率が全国を上回っており、学習の定着が見られました。
- ◆「話すこと・聞くこと」領域では、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえる問題は正答率が高く、力を発揮しましたが、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる問題（記述式）に課題が残りました。
- ◆「書くこと」領域では、「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」といった問題に苦労した児童が多かったようです。また、記述式の問題でしたが、今年度は全体的に無解答率が下がったものの、この問題については無解答率も10.7%でした。
- ◆「読むこと」領域では、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける問題に課題が残りました。また、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題に課題が残りました。この領域に関する問題は3問出題されましたが、全国・全道と比較して低い結果となりました。



②正答数の分布

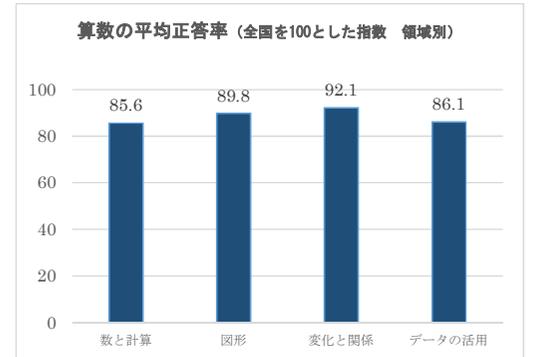
全14問のうち正答数0～4問の児童の割合は全国・全道とほぼ同様でした。しかし、正答数6～10問の割合が大変高く、11問以上になると急に低くなっています。筆者が述べている内容から要点を読み取り、それらの情報を結びつけながら要約したり、自分の考えと比較しながら書いたりする力をつける指導が必要であると考えています。



算数 **全国の平均正答率と比較して「相当低い」結果でした。**
全道の平均正答率と比較して「低い」結果でした。

①領域別の結果

- ◆「数と計算」では、一の位が0の二つの2位数の乗法の計算は全国よりも若干低かったものの、全道を上回り、定着が見られました。また、2位数÷1位数の筆算について、図を基に各段階の商の意味を考える問題では、全道に近い結果となり、定着がうかがえました。式の意味を、場面と関連付けて読み取る問題や、たし算とかけ算の混合した整数の計算、分配法則を用いる計算に課題が残りました。問題にある日常生活の場面を解釈し、小数のたし算やかけ算を用いて考えを記述する問題で課題が残りました。
- ◆「図形」では、正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題では、全国を上回る結果となり、学習内容の定着が見られました。しかし、台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題で課題が残りました。
- ◆「変化と関係」では、伴って変わる二つの数量の関係が比例の関係ではないことを説明する問題では、全国とほぼ同様の結果となり、力を発揮しました。しかし、伴って変わる二つの数量の関係が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを、式や言葉を使って説明（記述）する問題に課題が残りました。
- ◆「データの活用」では、示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて説明（記述）する問題に課題が残りました。



問題形式では「記述式で説明する」ものが4問ありましたが、昨年度の無解答率よりも割合が低くなり、最後まで取り組もうとする気持ちが表れていました。

②正答数の分布

算数の問題数は全部で16問でした。正答数1～5問の割合は全国・全道よりも若干高くなっている状況ですが、6～10問の割合がたいへん高いです。そのため、11問以上の割合が低い結果となりました。算数を苦手としている児童の力の引き上げが必要と考えています。算数の授業においては、これまでT.Tや少人数指導など、指導方法の工夫を継続してきましたが、今後も丁寧な指導を心がけながら、児童の学力向上を目指していきます。また、夏季休業後から本格的に利用が始まったAIドリルの活用を図り、基礎基本の定着を進めながら、授業での対話活動を通して、友達の考えを理解し、自分の考えと比較しながら説明する力を育てていきます。

